

# 手賀沼が海だった頃

NO. 4

地域の歴史や自然を皆で語ろう

2001・10・1

## 手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会会報

### 受け継がれてきた文化財（我孫子・柏）の行方

地域史ニュース二話

#### 寄稿

#### 炭化の進む丸木船、 今こそ保存を！

毎日新聞記者 大矢武信

かつて、千古の名鏡」と小路實篤らが船遊びをしたいわれ、白樺派の文人たちが親しんだ手賀沼。しかし昭和三十年後半から汚染化が進み二十六年、環境庁が設立されて以来全国河川水質汚染度ワーストワンの不名誉の記録が続いている。こうした中、我孫子市の郷土史家が注目すべき「丸木船の保存」の提言を行った。白樺派の志賀直哉、武者



神社壁面に吊るされた丸木船

八十。厚さ三十センチの大きさ。一本の椎の木の丸太を石器で繰り抜いた跡がくつきりと残ると列記されている。それから七十七年経過。この丸木船Ⅱ写真Ⅱが同地区の八幡神社（祠）脇の壁沿に針金で吊るされていることが郷土史家により確認された。この間、丸木船は炭化が進み「長さ四・一五メートル、幅は最大五十センチから二十センチ」

厚さ十五センチまで縮小した。彼は「このままでは丸木船は自然消滅してしまう。先人らの歴史遺産を今こそ守ろう」と訴える。

地元古老らによると出土した時、県庁の役人が一番大きい丸木船一隻を県文化財に指定すると持ち帰ったはずと語るが、現在県立中央博物館には「丸木船」は

保存されていないという。この丸木船は、同神社の氏子たちが社宝として長く保存、辛うじて残ったものだ。同提言を知った「手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会」の有志は、「丸木船の学術的な炭化調査を行い、科学的処理して大切に保存できれば」と話している。古

金棒をついた高校二年生の二人だ。四人の若者が、長さ約一・二メートル、幅〇・八メートル、高さ一メートルの長持を担ぎ、その後ろに保存会会員や見物客ら。ゆっくりとした唱え声も間断なく続いた。



40年ぶりの獅子送り  
（赤間栄太郎さん撮影）

### 40年ぶりの獅子送り 復活し、若い世代へ

当会 浦久淳子

「ヤアレエー、六根清浄（ろっこんしょうじょう）」風が涼やかさを含み始めた八月十八日、柏市篠籠田で四十年ぶりの「獅子送り」が行なわれ、大きな唱え声の行列が練り歩いた。県指定無形民俗文化財の「三匹獅子舞」が、毎年開催されることで知られる篠籠田のお盆。獅子送りは、この「三匹獅子舞」で使用した面などを長持に入れ、支度宿（しやくど）の谷川輝夫さん宅から、保管場所の小田山さん宅まで運ぶ行事だ。「三匹獅子舞」を継承するのは「三匹獅子舞保存会」（増田一仁会長）。「長持は重く、獅子送りはずっと行なわれてこなかった。しかし、若い人に経験してもらいたくて、今年復活させた」と増田さんは話す。獅子送りの経験者は、現在五、六人に減ったという。当日午後五時半、約百人の見物客が見守る中、獅子送りが始まった。先頭はキツネ面、サル面を被り、

約二キロの道を一時間近くかけて歩き、小田山さん宅に到着。長持を担いだ感想は「とにかく重かった。九十キロはあったのでは」。先導役の伊藤光孝君・北島諒太郎君は、「金棒が重く、先が足にささりそうで怖かった。でも、皆が楽しんでくれたので」と、大役を果たしてホッとした表情だ。

民俗行事は、後継者不足が大きな問題となっている。同保存会では、子供たちでもわかる笛の音階表記を考え出すなど工夫を重ね、継承に努めている。



# 松ヶ崎レポート

NO 3

鈴木英夫

人の目を引いていました。九月一日付けの毎日新聞千葉版に掲載されましたので、写真をご覧になった方もいらつしやると思います。

三度、松ヶ崎不動尊の絵馬「風景図」に触れたいと思います。

去る八月、当会の会員である菅谷孝之さんが同図のネガをもと

に、ほぼ原寸大のコピー

## 絵馬「風景図」に描かれた欄干

一号で椎名道利さんが

—を作成してくれました。このコピーは八月十九日の手賀沼ジャズフェスティバルに展示され、通り過ぎる



松ヶ崎城内から見た台地下の風景。かつては帆船の姿も

女性らしき人物が一人描かれており、山側と谷側に客用の席があります。注目したのは谷つまり現在のアサヒ飲料を見下ろす位置にある席です。従来は、山側と同様に客が飲食するための空間としか理解していません。この「風景図」をみると谷側の座敷には谷の方向に欄干が確認できます。つまり、座席は崖に付き出ている可能性が

「木崎橋から富士がよく見えたものです」とおっしゃっていたからです。松ヶ崎城からは警察署と柏中央高校の間に見え、木崎橋からは警察署の左側に見えます。呼塚からは篠籠田の丘が隠れてしまっているので見えません。かつて欄干から身を乗り出しながら、左手に湖面を走る船の帆を眺め、右手には赤く染まる富士を眺めたのでしよう。松ヶ崎の不動尊は名勝の地であったと想像させてくれるのが、この欄干です。

## 大関隆次さんが講演

### 「手賀沼とその周辺の歴史」

7月8日 スタジオWUUで

講師は、柏市史年表や柏市史資料編などで中心的役割を果たした、元柏市史編さん室長の大関隆次さん。講演では、古文書や新聞記事、古い書物を紹介しながら、江戸時代からの手賀沼の変遷を話した。具体的な内容は「新田開発」「豊かな沼の恵み」「水戸街道と呼塚」「手賀沼の汚濁」など。四十七人が参加した。

も新田開発の灯は消えることとなく、江戸中期までに三十九カ村の美田が登場した。そして沼の様相が一変するものが、昭和二十一年からの「緊急食料増産事業」を通しての干拓事業で、現在の手賀沼へと姿を変えてきた。手賀沼の恵みとして有名な手賀沼の恵みとして有名なウナギはアオと呼ばれる天竺鯛の一種で、カモは然るもので名声高く、カモは空が真っ黒になるほど飛来した。「カモ氣のため、カスミ網の何十倍という大きさの網が手賀沼に張り巡らされ、冬になると鳥屋（とや）が建てられました。その鳥屋や一晩での捕獲量、ツガイの値段が、季節の風物詩として、新聞で報道されま

「手賀沼は、人々の郷愁の地、限らない恵みを与えてくれた地、やすらぎを与えてくれた地でしたが、全て過去形のものになってしまいました。しかし、現在徐々に改善され、手賀沼浄化から手賀沼利用へと発展しつつあります。自称「手賀沼好き人間」の大関さんは、手賀沼への思いを語り、この日の講演を終えた。

かつての手賀沼の大きさはどのくらいだったか。開拓により、その面積は大きく変わった。「大正十二年に編さんされた『東葛飾郡誌』では、湖水面積は三〇二四ヘクタール。現在は六五四ヘクタールです。大正時代は比べてさえ、五分の一になってしまいました。その手賀沼、江戸時代から昭和まで、何度も開拓事業の対象になってきた。幕府は寛文年間、印旛・手賀沼干拓を計画したが、出水により挫折。しかしその後

昔はすぐに水につかることで名高かった。台風のために浸水し、「呼塚の国道、またまた水の下。地元農民が新渡船を始める。これは違法なりやいかに」と新聞でひやかし半分に書かれるほど。江戸時代には手賀沼が出水すると、旅人は根戸から花野井方面へ向かい、高田の裏を通って日光街道へ抜ける、迂回路を利用した。

講演中の大関さん



講演中の大関さん



# 寄稿

## 手賀沼・大堀川・大津川の地形学的解析(2)

### 手賀沼の水運について

#### 長沼映夫

##### 茜津周辺の地形

ありません。

前号で提起した茜津周辺の地形と郷土史研究の関わりを述べてみたいと思います。まず、茜津があった位置は別図の通りですが、津層(関東ローム層など)は(港)の船着場のあった正確な位置は、その内の大津川の方なのか、支流(大宮八幡の側)の方なのか、又は合流点の台地下なのかは一切不明です。さて、ここで地形の話になりますが茜津があった所(A)は台地で、(B)の台地より一段低い面ですが別な段丘面では



このことは大切な事なので、少し難しくなりますが、詳しく述べます。つまり、(B)の台地の洪積世の地層(関東ローム層など)は高度を下げ(A)の台地から大津川の方につながっていった筈です。筈ですと書いたのは、大津川の辺りでは、現在では大津川によって浸食されたり、その堆積物によって覆われて見ることが出来ませんが、この辺りの低地はいわゆる沖積低地のように見えても、内部的には多くの所が構造的には台地である所が多いということです。このことは、現在の手賀沼でも、大津川の堆積物によって出来たと

##### 手賀沼湖底の古地形と地質と水運

いた東京低地についても言えることで、九十九里平野の底から谷や貝塚が発見されています。この事で、私が一番言いたいののは、手賀沼湖盆において、その大きな谷や平野形成に大津川(大堀川も同じ)は殆ど関係がないということ。話を少し脇へそれました。が、いよいよ本題、つまり手賀沼から次の於賦駅(我孫子市日秀に比定)に至る官道(東海道)の道筋と地形に入っていきたいと思えます。この場合、陸路と水路の二つになります。まず、大津川から。水路は現在の大津川の入り江を沼の北辺まで行き、細い水路を現在の湖北高校の所の日秀まで至ったのでしよう。ここで水運の事を考える時、湖底の地形が大切ですが、手賀沼の場合、前から述べているように、南岸(右岸・沼南側)と北岸(左岸・我孫子や柏側)とが極めて非対称的で、前者には台地の末端が浸食された低い台地が入って、硬い洪積層からなり、その上の(ドロ)も薄く、

## 活動

### 記録



#### 自然環境グループ立ち上げ

平成十三年六月三十日

大堀川・松ヶ崎周辺の踏査を兼ねて顔合わせ。しとしと降る雨の中、JR北柏駅を出発したが、歩くうちに雨も上がった。具体的な活動はこれからで、自然に興味のある方、募集中。講演会「手賀沼とその周辺の歴史―江戸時代から現代まで」

平成十三年七月八日

元柏市史編さん室長の大関隆次さんが講演。内容は二面に掲載。(スタジオWU)

#### 歴史グループ第一回会議

平成十三年七月十九日

歴史グループの活動もここから。役員を含め八人が集り、会議を開いた。絵馬の復元や、十月の絵馬展示会について打ち合われた。(スタジオWUU)

平成十三年九月二日

「絵馬・松ヶ崎不動尊風景」の再現、「手賀沼ジャズフェスティバル」のフリーマーケットに参加

平成十三年八月十九日

絵馬復元については六面



「さあ、どんどん買って行って」

講演会「未来に向けての文化遺産の保存」

東京国立文化財研究所名誉研究員・神戸芸術工科大学名誉教授の伊藤延男さんが講師。要旨を四面に掲載。(スタジオWUU)



伊藤延男さん・講演記録（要旨）

## 未来に向けての

## 文化遺産の保存

平成13年9月2日 スタジオWU

伊藤延男さんは、日本の文化財保護行政を築いた一人で、国際的にも活躍。講演では「世界の文化財保存の歴史」「地域の山城」の話もあったが、紙面の都合で割愛した。



伊藤延男さん

### ○文化財と文化遺産

「文化財」という言葉は昭和初期から見られるが、一般的には一九五〇年施行の文化財保護法により、公用語として使われるようになった。「文化」と

は辞書を見ると「人が自然に手を加えること、意義を付与すること」というのが一番普遍的な言い方だ。これは広義で、戦後広まった文化人類学の「文化」だが、狭義は「高度な思想、学術、技術等の表現」。国や言語により、文化の捉え方に微妙な差がある。

「文化遺産」との言葉もあるが、財も遺産もほぼ同義で、「文化活動の所産としての事象、または事物で価値を有するもの」の意。文化財と言う時の留意点は、まず過去の所産であること。昨日も過去だが、文化財は一定の時間が経ち、多くの人の目にとまり、記憶に残っていくものという選別が必要になる。そして現在に残されており、未来に引き継ぐべきものでもある。

### ○日本の文化財保存の歴史（前史も含む）

日本の場合、今で言う文化遺産の保存を始めたのは、奈良時代後期。法隆寺伝法堂・唐招提寺講堂、正倉院などだ。当時、寺を作るのは国の仕事で、国の管理をやめる時は領地をやり、運営をまかせた。しかし、東大寺だけは、寺の

維持と修理のための領地を分けて与えたらしく、十一世紀まで毎年修理をした記録が残り、その様子が良く分かる。

鎌倉時代は、新しい復興の時代。中国から新しい様式や構造の建築が入り、それらを取り入れて建物の修理をした。室町時代には、將軍、特に足利義政などは宋や元の絵画や工芸品、茶道具を愛玩し、管理人をおき管理をさせた。そういつたものが東山御物と呼ばれている。公開はしないけれど、私設の博物館・美術館のはしりといえる。

中世・近世では一貫した政策がなく、たまたま修理する時には幕府・大名は費用を寄進した。しかし全くの思いつきで、そのため明治になってから大変荒れてしまった。

明治・大正年間に、古器旧物保存方・古社寺保存法、史蹟名勝天然記念物保存法という法律ができた。また昭和になつて古社寺保存法が改正され国宝保存法に、次に重要美術品保存法が施行された。戦後、国宝建造物などが破壊の危機に瀕していた中、法隆寺金堂の火災がおこり、それを機に昭和二十五年、文化財保護法が制定された。

### ○文化財保護法の現状

今日は、制定後付け加えられたものの幾つかを紹介する。「登録有形文化財」は、平成八年の新設だが、あまり硬い縛りがないので、好評のようだ。時代は五十年くらいたてばよいとし、外観も四分の一まで改変してかまわない。

「無形文化財」は演劇・音楽・工芸技術の分野で人間国宝など極めて高度の技術。「民俗文化財」は風俗習慣・民俗芸能やそれに関連する有形無形のもの。「埋蔵文化財」は地下にある全ての文化財で、これまで話したものは全てセレクタされたものだが、これは全部だ。掘った人が届け出る。

「伝統的建造物群保存地区」は、町並み保存のこと。地域の皆が納得できるように、まず市町村でまとめてもらう。その中で良いものがあれば、国が黒子になり援助する。地方のイニシアチブで地区が定まり、国がサポートするのは、文化財保護法の中でも特異な立場といえる。

### ○文化財保存の課題、二十一世紀への展望

有形であろうと無形であろうと同じ地面から生まれたものだが、現状は種別により保存の進行に差がある。たとえ

ば、寺の梵鐘など調査が進んでなく、十年前くらい前でも、奈良時代の鐘がそのままという話もあった。こういった種別による進行の差をできるだけなくしてはならない。

次に、文化財保護法は保護であつて保存ではない。保護とは保存と活用。史跡も本来の形で保存する方法と転用する方法がある。凍結保存よりも、地域住民、国民のために活用できる形が望ましい。公園といつてもブランコ等必ずしも必要ではなく、歴史的な風致にあり、かつ子供が楽しめる形があるのでは。指定文化財の種類、価値は拡大してきた。しかし、フランスなどに比べると十分の一。もう少し緩やかな形にし、保護することが必要だ。

これからは地方の時代。十九世紀、世界では新しい国家が次々と生まれた。たとえばドイツは、今日のドイツにまとまる時期に、文化財を保存した。日本の地方も経済をしつかりさせ、そういった形で文化財保護ができた。それがピラミッド状になり、地方から世界までの強い連携を持てるようにしなくてはならない。

また、世界遺産の趣旨から、「自然遺産」と「文化遺産」との関係も残る。自然遺産の中には、自然をそのまま残す形と、自然と文化の接点が必要になる形がある。今世界遺産に申請している熊野は、信仰なくしては成り立たない場所だ。自然と建物と祭り、今後はそのような総合的な価値を見直される保護もありうる。

そして、関係者のコンセンサス。文化は討論で人をまかして、理屈を通すものではない。ユネスコでは多数決では決めず、どうしようもない時はコンセンサスからの離脱という形だが、満場一致になるまで議論する。それには関係三極構造の構築が不可欠。一番目は、国民あるいは地域住民の熱意。昔は国・天皇のためだったが、現在は地域住民を中心とした国民的なコンセンサスが必要だ。二番目は、学術経験者の調査。個人の思い付きなどではなく、やはり科学的・学術的な裏づけがある。そして、三番目に地方ならば市町村の行政努力。それらができると、今日話した文化財・文化遺産というものが、非常に良い形で保存・活用できると思う。



## 渡り蝶・アサギマダラ



アサギマダラ  
(矢沢博さん撮影)

千キロ以上も旅する、渡り蝶・アサギマダラが、柏市近辺でも見られるかも——今夏筑波山で撮影に成功した写真と一緒に、こんな情報を教えてくれたのは、柏市在住の矢沢博さん。アサギマダラは、春には沖繩・九州から東日本へ北

上し、秋には逆に南下する。秋に逆に分かっている。しかし、台湾から滋賀県まで飛んできた蝶が近年見つかるなど、まだまだ謎は多い。一般の人も巻き込んだ調査が、インターネット上で行なわれている。姿は名前のとおり、浅黄色。薄い青

色で、羽を広げると約十センチメートルの大きさだ。透明感があり、飛び方はゆつたりとし、「高原の舞姫」と呼ばれることも。柏では夏から秋にかけて、雑木林に咲くヒヨドリバナが好物の一つなので、その付近で見られる可能性も高い。

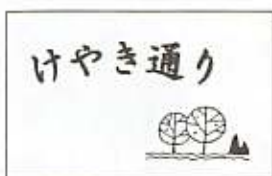
## 域北 自然ウォッチング 柏北 当会会員 塩川智英

風の強い日、双眼鏡とルーペをフルに活用した五時間であったが、その時の野帖によると、セグロセキレイ、コガモ、アオサギ、コサギ、キンクロハジロなどに交じり、カワセミのつがいも四カ所で観察されていた。

この会は地質学を研究利用されるものと小生誤解した、間違いついでに半世紀前の職業選択時の地質学的反省を記します。

高校卒業時一九五〇年（敗戦後五年目）、獣医になろうと担任の先生と相談したところ「獣医は先行き生活苦しいよ」と言われました。当時食うことは人間もやつとでした。直ちに志望を基幹産業（化石燃料）へ変更、戦後の復興は鉄と石炭への重点傾斜生産から始まったのは歴史上の事実です。そこで鉱山学（必修科目に地質学あり）を専攻する事に変更しました。当時全産業中給料の一番高かったのは鉱山でした。月給一万二千円位。

一九五七年には炭鉱技術習得の為、日本人がドイツ



## 湯本治文

の炭鉱へ出稼ぎに行った事など全く今昔の感です。現在石炭鉱山は日本に二カ所を残すのみで北海道釧路と九州長崎県にあります。生産量は正確ではないのですが、年産四百万ト程度、両山共に海底の鉱山？です。

一ストラリアの鉱山は山の表土を除くと何百メートルの厚さで石炭層があり、百五十トのバックケットで掘りあげ百五十ト積トラックで運搬し、選炭場で大きさと要らない石などを選別すれば港から出荷出来るのです。所謂露天掘りです。これと比べ、海底深くトロッコに乗って何メートルも入って一メートル位の炭層を掘るので、掘り出し、その選別率は比較にならないほどです。危険性も全然ちがいます。

石炭以外に強敵の出現はご存知、化石の石油とLNGです。共に塊でなく運搬に便利、燃焼後灰の始末不要、大気汚染も比較的少ない、その上に中近東の油田の発見と戦艦大和の造船技術を忘れていたのです。一九六〇年代にマンモスタンカーの出現によって石油

因みにわが国の石炭消費量は年一・三億ト以上です。殆どが火力発電所で消費されるのです。日本の石炭の埋蔵量は未だ相当量が有ります。何故掘らないか、それは価格に国際競争力が無いからです。例としてはオ

現在鉱山技術は資源リサイクルの最先端テクノロジーに活用されています。多くの鉱石を掘り出し、その中から有用物を選別する選鉱学はリサイクルそのものです。余談ですが、韓国リサイクル学会会長は学友であり、嘗て柏のパウダーテック社を見学しました。最後に五十年前ソニーは東通工、ホンダは本田で共に発生期でした。五十年後の先端ベンチャー産業は何でしょうか？予測は不可能ですが、不断の努力無くばチャンスは掴む事が無い事は真実だと思えます。

## 大堀川、カワセミのひとりごと



でも、カワセミだけが戻ってほしい生き物ではない。彼らが子育てのできる環境を残してやってほしい。美しく刈り込まれ、外国生まれの花で飾られた公園では食と住が保証されない。カワセミにとつての快適な住宅は、ヘビの侵入出来ない程度の高さを持った水辺の土塁であり、食堂は川魚が毎年産卵出来る清流であることを知ってほしい。

ある調査員の報告として、「ある夕方、大津川の水面上に二羽のカワセミが、チチツと鳴いて追いつ追われつ飛んでは杭に止まる姿を目撃した。それだけ、自然環境が徐々に改善されつつある証しと思う」とあった。手賀沼に入るもう一つの川、大堀川はどうだろうか。今年の正月四日、北柏ふるさと公園から高田の青葉橋まで歩いてみたが、朝から晴れ上がっていたが、

人間の子供達が草の種をつけて歩けるヤブや、素足で小魚をつかめる小川がなくなり、カラスとスズメしか棲まない街では、遊びまわる人の子もいなくなるのではないだろうか。



# 今秋のイベント

## 絵馬展示会と 中世の城跡めぐり

柏中央公民館フェスティバル  
参加・絵馬展示会  
「よみがえった松ヶ崎不動尊の賑わい」柏にも歴史はあったー  
松ヶ崎不動尊に奉納されていたにもかかわらず、燃えてしまった絵馬十三点のうち、十一点をパソコンで再現、展示する。左欄の原寸大の「不

動尊風景図」の他、「俱利伽羅不動」「平将門・藤原秀郷合戦の図」など色鮮やかな絵馬を紹介。同時に、午前十一時〜午後三時頃の二回、顧問の鈴木英夫さんが絵馬についてミニ講演をする。松ヶ崎城の図解、当会活動報告も展示。  
▽十月二十一日(日) 午前十時〜午後四時  
▽柏中央公民

館、三階サロン  
▽入場無料  
中世の城跡めぐり  
「松ヶ崎城・根戸城」  
中世の山城跡二カ所を見学。  
▽十一月二十五日(日) 午前十時、JR北柏駅改札口前に集合  
▽三時間程度の予定、雨天中止  
▽資料代 五百円  
▽問合せ 0471・63・3631岡さん

子供三百円  
▽問合せ 69・3154 十谷さん  
新刊「常陸・秋田 佐竹一族」(七宮 洋三著)  
十世紀から今日まで続く佐竹氏。十七世紀初めまで、北関東の常陸・磐城の境界の地に君臨、江戸期には出羽・秋田に転封された。その九百年間を、中世を中心に描いた内容。「なぜ佐竹氏は生き延びたか」を軸に、佐竹氏の大きな流れ、武将達の生き様などが追われている。二百五十ページ、二千八百円▽新人物往来社03・3292・3971

### 会員だより



竹島いわお

『楳取魚彦(かとりなひこ)資料集』という本を出しました。魚彦は、江戸中期の国学者・賀茂真淵の後継者となった佐原の人です。佐原といえは、伊能忠敬ばかりが有名ですが、二十歳年上の魚彦は、忠敬の手下となった人物です。家督をゆずったあと、江戸に出て、今で言えは古語辞典『古言梯』を完成しました。もって知って欲しい人だが、忠敬さんの本は売れても、魚彦の本は売れず。残念至極。

大渡英子

映画「四季 遊牧」の上映スタッフが縁で、モンゴルへ行きました。雪害のお見舞が目的です。自然の中で生きる姿に感動し、家族の関わり方、心の豊かさに触れ、逆に学ぶことの多い旅でした。雄大な自然に浸っている延長で、秋に向けて仕事、同時に地域で子ども達と自然の気づき、楽しみを共感したいといういな場でネイチャーゲームを計画中です。日々の中で目を向け、耳を傾けると、今までと違った私があります。

## 再現した不動尊の絵馬 手賀沼ジャズで初披露

絵馬「不動尊風景図」をパソコンで原寸大に再現、八月十九日に柏ふるさと公園で催された手賀沼ジャズフェスティバルで展示した。大絵馬だけに立ち止まって見入る人が多く、時には人だかりもできるほど大人気。



手賀沼ジャズで展示中の絵馬

明治初期と思われる、松ヶ崎周辺の風景が描かれたこの絵馬、柏市教育委員会に残っていたネガを借り、当会の小柳満雄さんと菅谷孝之さんが、再現に取り組んだ。

問題は写真を大きく拡大するため、どうしても鮮明な画像がでてこなかったこと。試行錯誤を繰り返して、十五枚の紙に分けてプリントする方法

に行き着いた。それぞれのパーツを台に張り、大きな一枚にするのも、根気と精密さのいる作業だった。しかし苦労のかいあって、完成品は上々の出来。今後、絵馬を絵として復元できればとの意見もある。ご興味のある方は、当会歴史グループまで。

## 情報 広場

\*電話の市外局番は0471  
手賀沼が海だった頃ー松ヶ崎城と中世の柏北域(当会)を会・書店で販売中

当会開催の歴史シンポジウムの記録を中心に、松ヶ崎城の説明、松ヶ崎周辺の歴史などをわかりやすくまとめた内容。歴史がないと言われる柏

だが、交通や流通という視点でとらえると、非常に重要な位置にあることが浮かぶ。新しい柏の歴史発見に。A五判 百五十六ページ、千五百円▽58・4512 だけしま出版

写真と彫刻による手賀沼展

昭和初期に建てられた、我

央広場集合  
▽大人四百円  
▽十月十四日(日) 九時半〜十二時  
▽柏市広池学園中

千葉銀行柏支店(NOCOS) 普通預金 3461475 (手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会 伊江有可里)

▽会計・松平信子 0471・33・6438  
▽会報作成 浦久淳子 0471・55・2351